

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成24年4月5日(2012.4.5)

【公表番号】特表2010-523543(P2010-523543A)

【公表日】平成22年7月15日(2010.7.15)

【年通号数】公開・登録公報2010-028

【出願番号】特願2010-501639(P2010-501639)

【国際特許分類】

C 0 7 B 37/08 (2006.01)

C 0 7 F 17/00 (2006.01)

C 0 7 C 5/13 (2006.01)

C 0 7 C 11/12 (2006.01)

C 0 7 C 67/293 (2006.01)

C 0 7 C 69/145 (2006.01)

C 0 7 C 29/56 (2006.01)

C 0 7 C 33/025 (2006.01)

B 0 1 J 31/30 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 B 37/08

C 0 7 F 17/00 C S P

C 0 7 C 5/13

C 0 7 C 11/12

C 0 7 C 67/293

C 0 7 C 69/145

C 0 7 C 29/56 B

C 0 7 C 33/025

B 0 1 J 31/30 Z

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年4月19日(2011.4.19)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 5】

さらには、E P 1 3 9 4 1 7 0号において、触媒系として錯体〔(ジエニル)Ru(非環式ジエン)〕(アニオン) (特に〔(Cp<sup>\*</sup>)Ru(ソルビン酸)〕(アニオン)または〔(Cp<sup>\*</sup>)Ru(ソルボール)〕(アニオン)を使用した、ジエンのシソイド水素添加が報告されている。本文献においては、非環式ジエンの代わりに環式ジエンを使用すると全体の収率に対して非常に悪影響を及ぼすことが明示されている。良好な収率を提供するとして示される唯一の条件は、溶剤としてニトロメタンを必要とし、ニトロメタンは産業上の用途に対して比較的有毒で且つ危険である。最後に、前記の文献の表4はルイス酸の添加が収率に非常に悪影響を及ぼすことを示している。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0024】

より特定の例は、化学式 ( I ' ) において、 $R^a$  がメチル、エチルまたはプロピル基を表し、且つ、 $R^b$  が  $(CH_2)_m X$  基を表し、前記  $m$  は 0、1 または 2 を表し、 $X$  は上の定義と同じである化合物である。特定の実施態様によれば、基質はソルボール、 $C_{1-8}$ -アルキルソルベート、あるいは  $C_{1-8}$ -カルボキシレートのソルボールエステルであってよい。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

好ましくは基質がソルボールで且つ触媒が  $[(Cp^*)Ru(COD)]X$  であるケースは、本発明から除外される。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項1

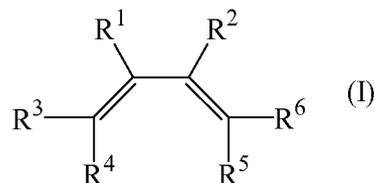
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項1】

$H_2$  分子を使用して 1, 4 - 水素添加によって、化学式：

【化1】



[式中、

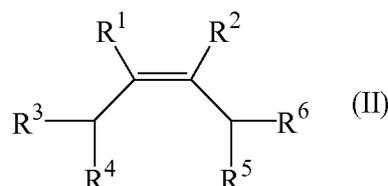
$R^1$ 、 $R^2$ 、 $R^3$ 、 $R^4$ 、 $R^5$  および  $R^6$  は同時あるいは互いに独立に、水素原子あるいは随意に置換された  $C_1 \sim C_{12}$ -アルキル基またはアルケニル基を表し、

$R^2$  あるいは  $R^6$  の 1 つが随意に置換された  $C_1 \sim C_{12}$ -アルコキシ基またはアシルオキシ基を表してもよく、且つ

$R^1$  と  $R^3$ 、あるいは  $R^3$  と  $R^4$ 、あるいは  $R^2$  と  $R^6$ 、あるいは  $R^6$  と  $R^5$ 、あるいは  $R^4$  と  $R^5$  とが一緒になって、随意に置換された  $C_2 \sim C_{16}$  アルカンジイル基または非共役アルケンジイル基を形成できる]

の  $C_5 \sim C_{22}$ -共役ジエンを、化学式：

【化2】



[式中、

$R^1 \sim R^6$  は化学式 ( I ) の化合物と同一の意味を有し、且つ、シス配置において  $R^1$  および  $R^2$  基を有する異性体が支配的である]

の相応するアルケンへと触媒還元するための方法において、  
前記の方法が、

- ・ 少なくとも1つの化学式：



[式中、

LはC<sub>5</sub>~C<sub>25</sub>-置換シクロペンタジエニル配位子を表し、ジエンはC<sub>4</sub>~C<sub>22</sub>-ジエンを表し、且つXは配位していないアニオンを表し、nは2、1または0を表し、且つL'は溶剤を表す]

のルテニウム触媒または前触媒、  
および

- ・ 以下からなる群から選択される少なくとも1つの酸性添加剤：

化学式R<sup>14</sup><sub>(3-x)</sub>MO(OH)<sub>x</sub>の化合物、ここで前記R<sup>14</sup>はR<sup>14'</sup>あるいはR<sup>14'</sup>O基であり、ここで前記R<sup>14'</sup>はC<sub>1</sub>~C<sub>10</sub>-基であり、MはPあるいはAsであり、且つxは1または2である；および

化学式R<sup>14</sup>B(OH)<sub>2</sub>のホウ素誘導体、ここでR<sup>14</sup>は上の定義と同じである；およびフェノール、あるいは3つまでのC<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>-アルキル基、アルコキシ基またはカルボキシル基、ニトロ基またはハロゲン原子によって置換されたフェノール；および

C<sub>1</sub>~C<sub>12</sub>-モノカルボン・非アミノ酸；および

HOOCCH=CHCOOH二酸、あるいはテトロン酸；

の存在下で実施されることを特徴とする方法（ただし、化合物(I)がソルボールであり、且つ化合物(III)が化学式[Ru(Cp\*)(COD)]Xである方法は除く）。